



亀岡市の概要

2018年7月3日

亀岡市セーフコミュニティ推進協議会

会長 桂川 孝裕

委員 河原 正浩

1

都会と自然を兼ね備えたまち

面積 224.9km²

人口 89,302人

世帯数 38,829世帯

〔2018年6月1日〕

2

選ばれるまち・住み続けたいまち



3

取り組みに至った経緯

地域の絆の希薄化

さまざまな不安が地域社会に浸透

死亡原因の上位は不慮の事故や自殺

SC

人と人とのつながり・地域コミュニティの再生
安全・安心のまちづくり

4

再認証後のあゆみ①

2013年 SC再認証取得(日本初) →
安全・安心まちづくりフェスタ
セーフスクール取組宣言



2014年 市民安全・安心フォーラム
篠町に「安全安心モニュメント」を設置

2015年 セーフスクール認証審査・認証取得
セーフスクールシンポジウム

5

再認証後のあゆみ②

2016年 セーフコミュニティフォーラム
セーフコミュニティアンケート調査

参画 消防団、PTA連絡協議会
防犯協会、暴力追放協議会

2017年 推進協議会の再編・強化
対策委員会の再編・強化
市民参加型プロジェクト開始

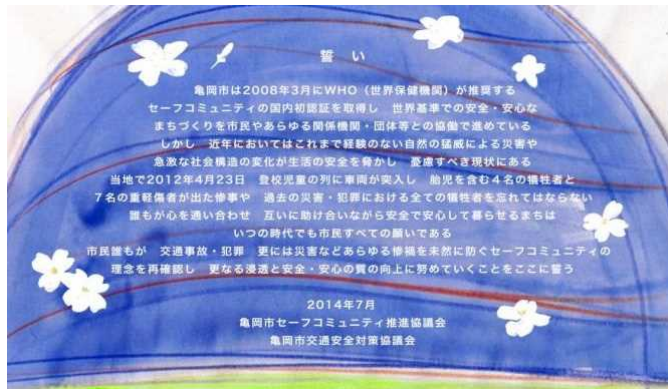
- ・セーフティドライブプロジェクト
- ・まち・レコプロジェクト



6

再認証後のあゆみ③

安全安心モニュメントを設置



2017年 事前審査



韓国・グアンジュ市

8

- ① 2012年の通学路交通死亡事故を忘れない
- ② セーフコミュニティ発祥の地である篠町からSCの理念を発信し市民協働による安全安心なまちづくりを推進する

7

S Cに取り組んでいる16自治体で 最も高い評価を獲得

	体制	仕組	推進力	対策	継続性	合計
配点	16	11	2	7	10	49
平均点	10.8	6.6	1.5	5.4	4.0	28.3
亀岡市	13	9	1	7	8	38

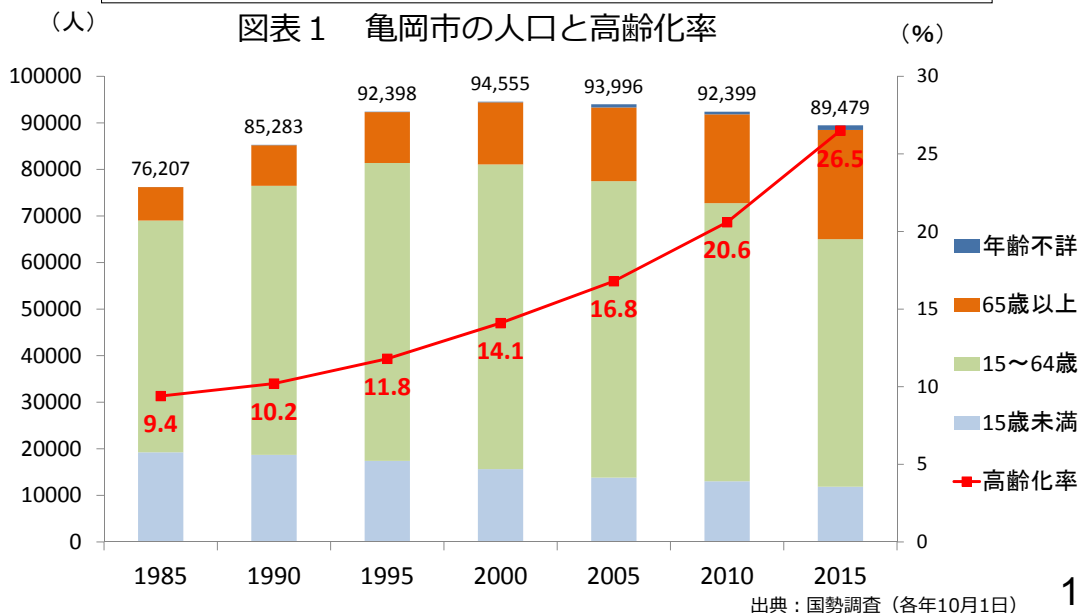
1位

出典: 2017「日本における安全なまちづくり『セーフコミュニティ』の10年間の実績に関する考察」
※平均点は小数第一位を四捨五入 著者 白石陽子

9

亀岡市の概要 1

人口は減少傾向、高齢化率は上昇

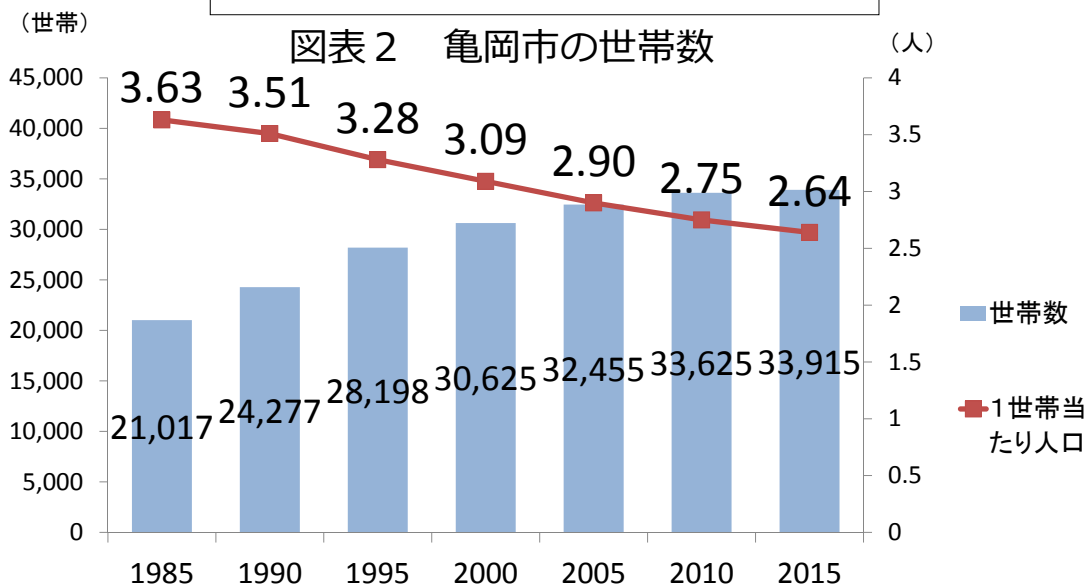


10

亀岡市の概要 2

単身世帯や核家族の増加

図表2 亀岡市の世帯数

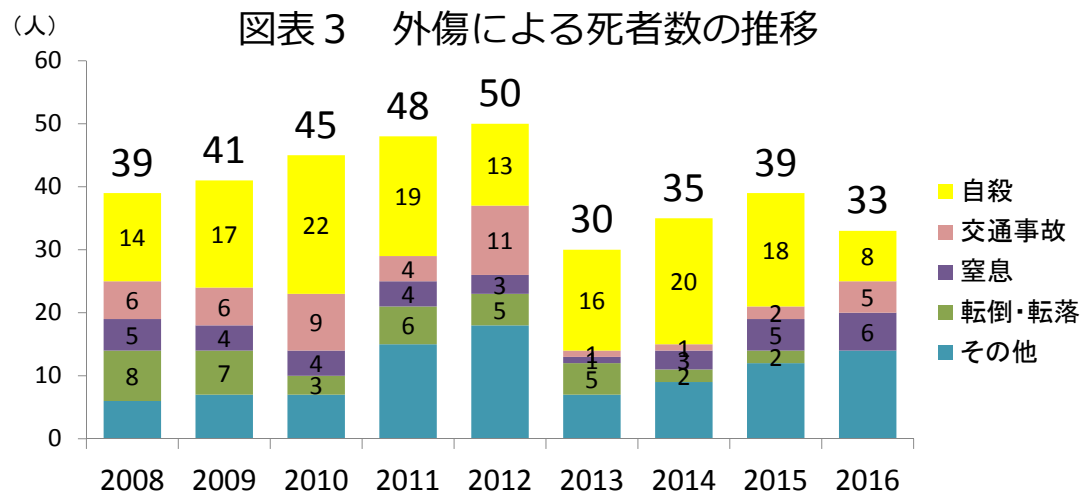


11

亀岡市の概要 3

死者数は減少

図表3 外傷による死者数の推移



初認証

再認証

出典: 人口動態統計 (厚生労働省)

12

多くの年代で死因の1位が「自殺」

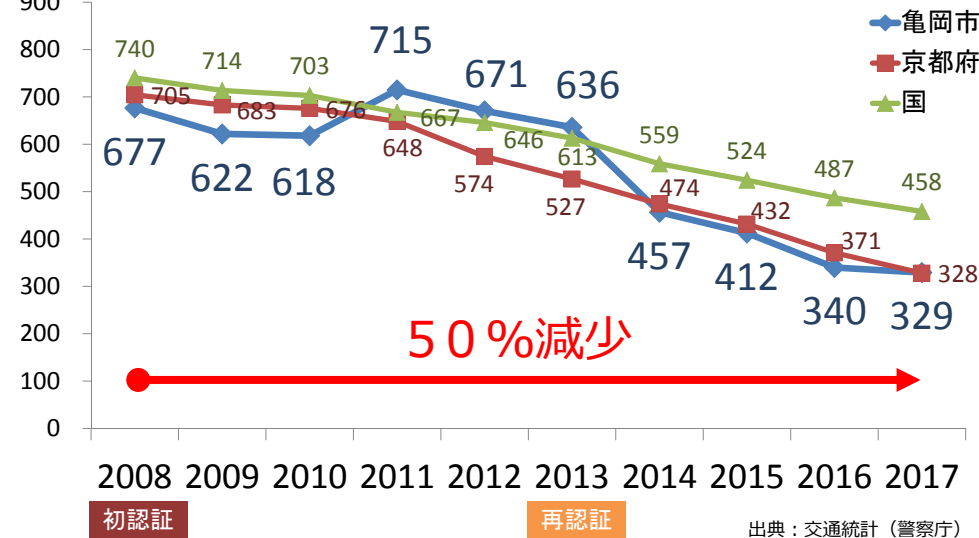
図表4 外傷による死因上位5位(2012~2016)

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0-9	交通事故	不慮の窒息			
10-19	自殺(2人)				
20-29	自殺(9人)	交通事故、不慮の溺水、火災			
30-39	自殺(11人)	交通事故、その他の不慮の事故、他殺			
40-49	自殺(16人)	中毒、その他の外因	不慮の窒息、火災、その他の不慮の事故		
50-59	自殺(10人)	交通事故、転倒・転落	不慮の窒息、その他不慮の事故、その他の外因		
60-69	自殺(12人)	交通事故、その他の外因	その他の不慮の事故	不慮の窒息、他殺	
70-79	自殺(10人)	交通事故	その他の外因	転倒・転落、その他の不慮の事故	
80-89	その他の不慮の事故	その他の外因	不慮の窒息、自殺(5人)		転倒・転落
90-	不慮の窒息	その他の外因	転倒・転落	交通事故	その他の不慮の事故

出典：人口動態統計（厚生労働省）

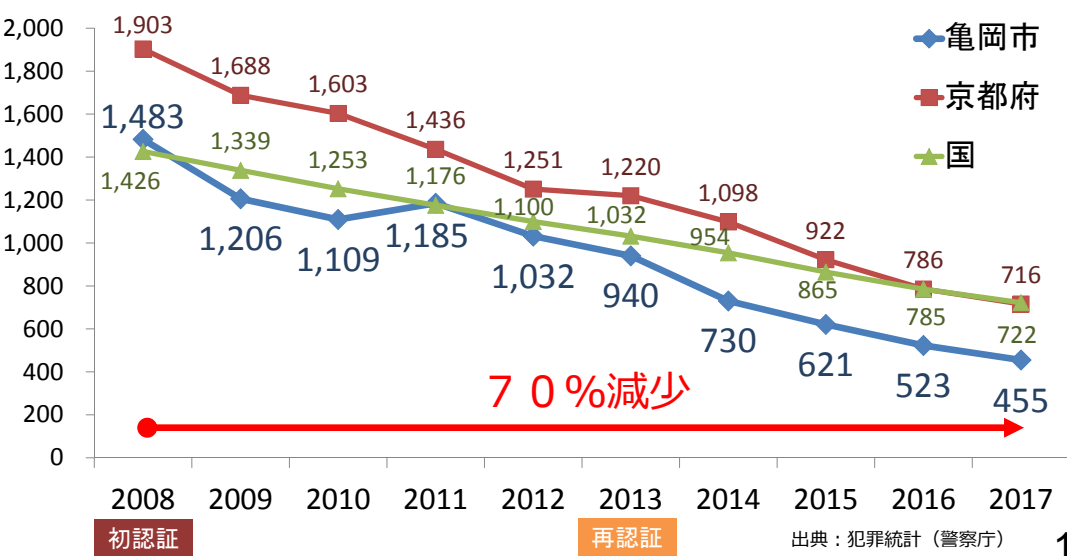
交通事故負傷率は50%減少

図表6 交通事故負傷率の推移(10万人あたり)



刑法犯罪発生率は70%減少

図表5 刑法犯罪発生率の推移(10万人あたり)



ガイドラインに沿った7指標に基づく活動

- 指標1 分野横断的な協働と連携に基づいた推進体制
- 指標2 両性、全年齢・環境・状況を網羅する長期的・持続的プログラム
- 指標3 ハイリスクの集団や環境、弱者の安全向上プログラム
- 指標4 入手可能なエビデンスに基づいたプログラム
- 指標5 傷害の頻度と原因を記録するプログラム
- 指標6 プログラムの内容・過程・変化による効果を評価する手法
- 指標7 国内外のネットワークへの継続的参加

指標1

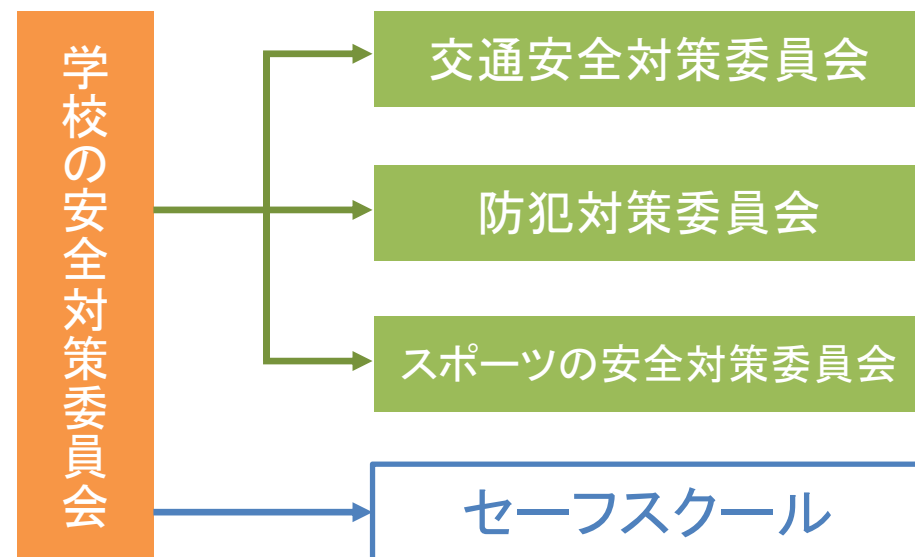
セーフコミュニティの推進体制



17

指標1

2017年 対策委員会の再編



18

指標2

全年齢・環境をカバーするプログラム

図表 7

単位：事業

		子ども 0-14歳	青年 15-24歳	成人 25-64歳	高齢者 65歳～
不慮の事故	1 家庭	27	18	19	28
	2 学校	24	9	11	9
	3 職場・労働	3	7	9	7
	4 交通・公共	53	42	42	39
	5 余暇・スポーツ	7	7	8	12
意図的要因	6 自殺	5	8	8	8
	7 暴力・犯罪	35	24	18	20
	8 災害	27	24	25	23

19

指標2

亀岡市総合防災訓練



20

学校の安全対策



学校安全対策協力員



地域子ども出迎えデー

21

小中学校の耐震化が完了



22

歩道の新設



23

ハイリスク・弱者

- ①虐待を受けているこども、高齢者、DV
- ②身体障害、精神的疾患、発達障害及び他の障害を有する人
- ③自然災害被害者
- ④外国人

24

指標4

根拠に基づいた取り組み①

重点課題	選定理由
乳幼児の安全	外傷発生動向調査では4歳以下の外傷が多い
高齢者の安全	①高齢化が進んでいる ②高齢者10万人あたりの負傷者数は年々増加している
スポーツの安全	外傷の26%は余暇・スポーツ活動中に発生
自殺対策	外傷による死亡原因で最も多いのは自殺

25

指標4

根拠に基づいた取り組み②

重点課題	選定理由
交通安全対策	①交通事故の発生件数は約500件/年以上、負傷者は約600人/年、死亡事故も毎年のように発生している ②救急搬送データでは外傷の約50%が交通事故
防犯対策	街頭犯罪認知件数は2009年までは減少傾向にあったが、2010年に増加に転じている(特に自転車盗が急増)

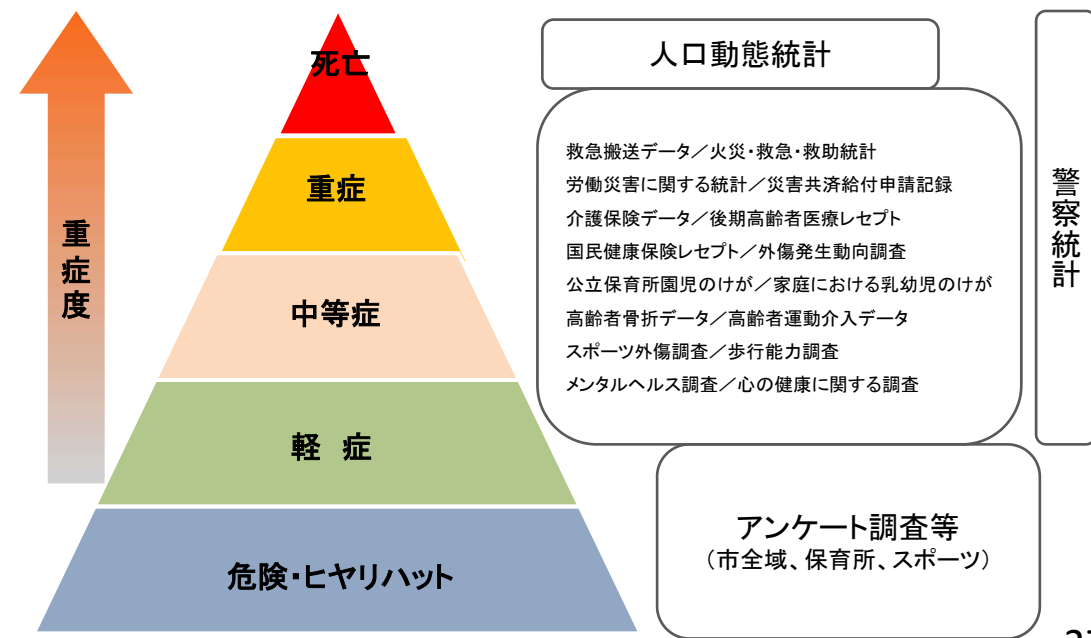


対策委員会・セーフスクールの取り組み

26

指標5

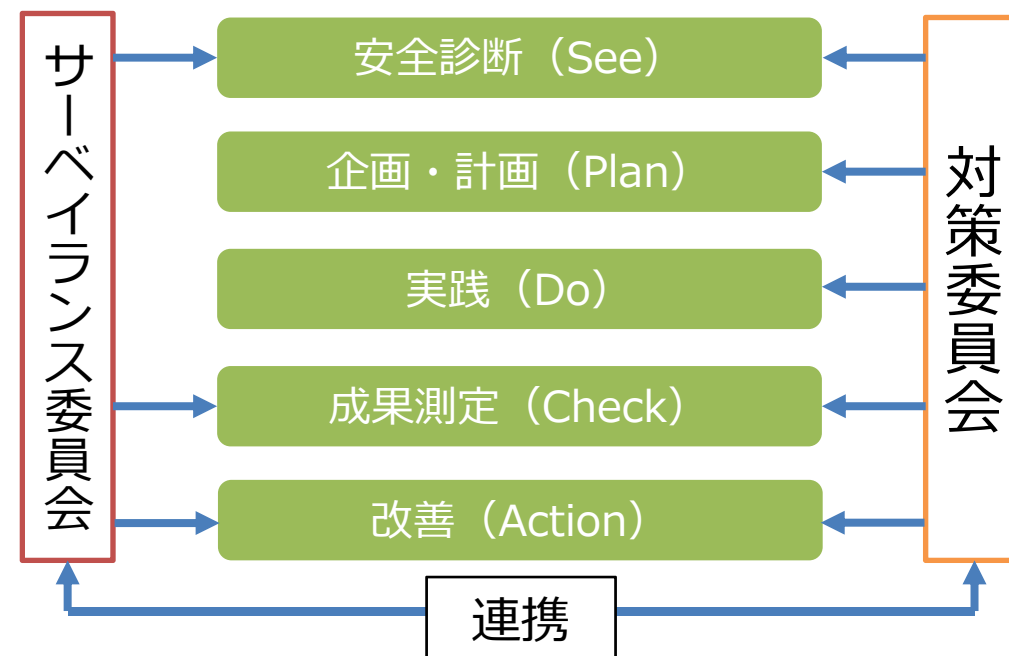
収集している外傷データ



27

指標6

プログラムの評価方法



28

年	関係自治体等	概要
国内	毎年	SC自治体 全国SC推進自治体ネットワーク会議に参加
		日本SC推進機構 定例会、研修会に参加
	2013	認証自治体 栄区、松原市、久留米市の認証式に出席
	2014	横浜市栄区 さかえSCフォーラムで井内前篠町自治会長が講演
	2015	認証自治体 北本市、厚木市、秩父市、十和田市の認証式に出席
		厚木市 市民安全・安心フェスタ2015inあつぎで講演
	2016	認証自治体 鹿児島市、甲賀市、泉大津市の認証式に出席
		学会 日本セーフティプロモーション学会で講演
	2017	認証自治体 箕輪町、栄区の認証式に出席
国外	2014	アジア 第7回アジア地域SC会議(釜山)で発表
	2017	世界 世界セーフコミュニティ会議(セルビア)でポスター発表

29



各地方議会



JICA



関西SC首長ネットワーク



韓国・済州島

30

活動の工夫点① 大学との連携

10大学20学部との連携

(最近の事例)

- ・乳幼児事故予防パンフレット・ポスターの作成
- ・シンボルマーク審査
- ・モデル地区の防災マップ作成 等



インターンシップ・ギャップイヤーで
参画した11人の学生が
自治体職員に合格

31

活動の工夫点② 企業との連携



ニュースの掲示



交通安全教室



ドライブレコーダーによる
まちの見守り協定

32

活動の工夫点③

対策委員会の連携



交通安全対策委員会
防犯対策委員会

同時期に進めていたプログラムを
効果的に広報するため合同で進行

33

活動の工夫点④

セーフコミュニティニュース



セーフコミュニティとは
セーフコミュニティ(SOC)とは、WHO(世界保健機関)が提唱する「けがや事故は偶然の結果ではなく、予防することができるとの理念に基づいて、予防に重点を置き、地域社会全体が協働で進める安全安心なまちづくりの取り組みです。」
亀岡市では、市内で発生しているけがや事故の現状及び特性などから、高齢者、若年者の安全、交通安全、防犯対策、命懸けスポーツの安全、乳幼児の安全、乳幼児の安全、学校の安全の7つの対策委員会を設置し、市民の皆さんとともに安全・安心なまちづくりを進めています。

亀岡市ドライブレコーダーによるまちの見守り協定拡大
ドライブレコーダーが活躍しています

亀岡市内の企業などが事業活動の中で使用されているドライブレコーダーを「動く防犯カメラ」として活用する「亀岡市ドライブレコーダーによるまちの見守り協定」を平成28年4月に締結しましたが、11月4日には新たに関西電力(株)京都支社と締結しました。
関係者は、今回で5社目となり、合計181社のドライブレコーダーが市内で稼働しています。
また11月14日、関係者の情報連携が円滑な連携につながったとして、両社に感謝状が贈られました。

セーフコミュニティかめおか 正副委員長会議を初開催
対策委員会一併としてセーフコミュニティを推進

11月15日に、初回会議で、6つの対策委員会の正副委員長が意見交換を行う「セーフコミュニティかめおか 対策委員会正副委員長会議」を開催しました。
会議では、10月29日に招致された最大都市セーフコミュニティ推進対策委員会から選出された代表が、取り組むべき課題などをお話しいただきました。
これからは、対策委員会間の連携も図りながら、セーフコミュニティ活動を推進していきます。

インターナショナルセーフスクール

安全で安心な学校・保育所・保育園づくり

セーフスクールとは

体と心のけがやその他の原因となる事故、いじめ、暴力を予防することによって、安全・安心な学校や保育所づくりを進める活動がインターナショナル・セーフスクール(ISS)です。

亀岡市立豊島小学校、社会福祉法人就養会亀岡あゆみ保育園、亀岡市立保育所8カ所(本梅、東本梅、川東、中部、東部、第六、別院、保津)がISS認定を取得し、現在も取り組みを進めています。

ISSの取組を小・中学校で共有します

教育研究所でのISS研修会

6月30日、教育研究所でISS研修が開催されました。
ISSの取り組みは、豊島小学校が亀岡市内の小中学校を代表して実施しています。ISS研修では、その取組を広げることと目的として開催されました。

今回はISSの基本的な考え方を改めて学び、日本セーフコミュニティ推進機構の白石代表を講師として招かれました。

「心と体の安全な学校づくり」というテーマで、ISSの理念を生かした取組や、取組を通じた学校や子どもの変化などについて講演されました。



安全な自転車運転を身に付けよう!

豊島部小学校の自転車運転免許の取組

豊島部小学校では、ISS取組開始時から4年生時に自転車運転免許取得を目指す活動を行っています。
今年も7月13日に、練習を重ねてきた4年生が亀岡警察署や地域交通安全活動推進委員の指導のもと、自転車運転免許取得のための試験を受けました。
また5・6年生は、免許取得後も安全に自転車に乗っているかを確認するため、改めて試験を受け直しました。
小学校6年間を通して、しっかりと安全な自転車運転を学んでいます。



34

活動の工夫点⑤

セーフコミュニティ応援隊

登録者 **53名**

〔2018年6月1日時点〕

(役割)

- ・セーフコミュニティ情報の発信
- ・イベントやボランティア参加 など



応援隊ステッカー

交通安全啓発
ボランティア参加

35

活動の工夫点⑥

新聞・テレビへのアピール



36

セーフスクール

取り組みに至った経緯～セーフスクール

未就学児や小学生の交通事故や外傷の防止
児童虐待等防止のための地域づくり
保護者の安全安心に対する意識向上

I S S

子どもの安全力の向上
子どもと大人の連携による安全・安心なまちづくり

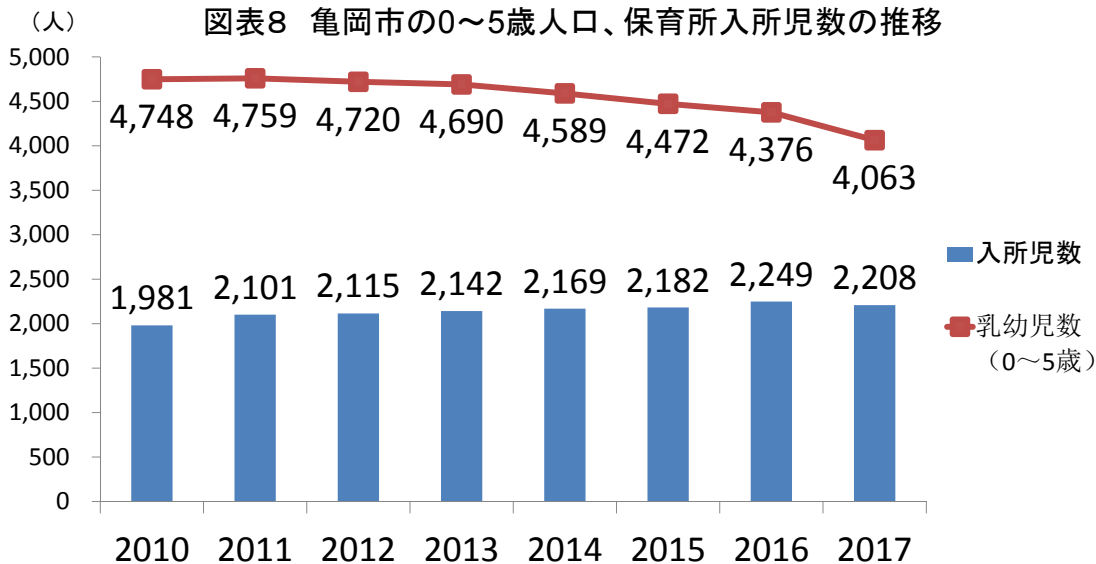
37

38

亀岡市の子どもの状況①

乳幼児数は減少、保育所児童数は増加

図表8 亀岡市の0～5歳人口、保育所入所児数の推移



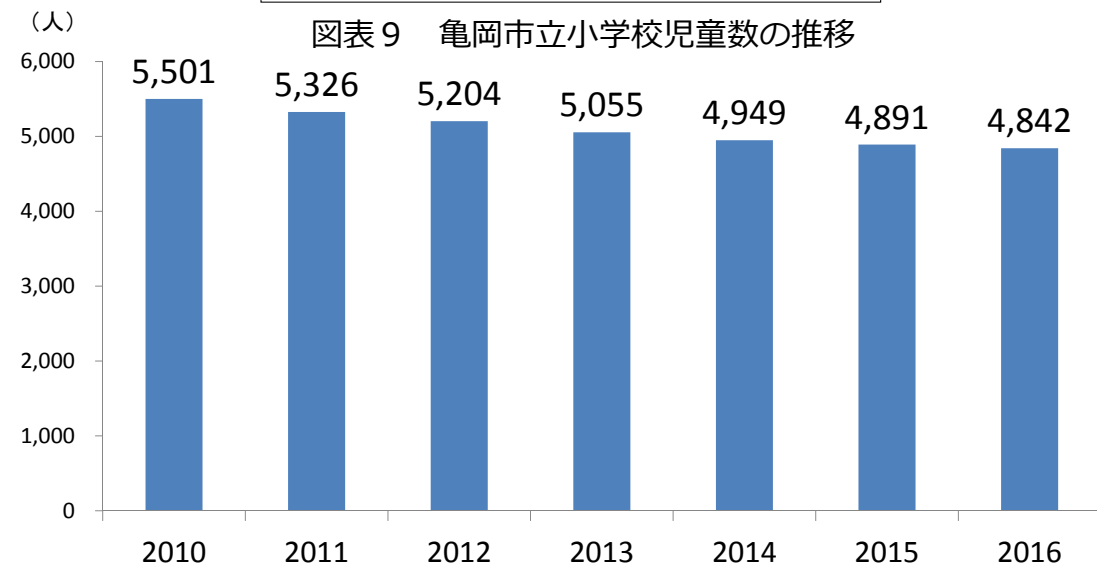
出典：亀岡市人口統計（市民課）、亀岡市保育課調べ

39

亀岡市の子どもの状況②

小学校児童数は減少傾向

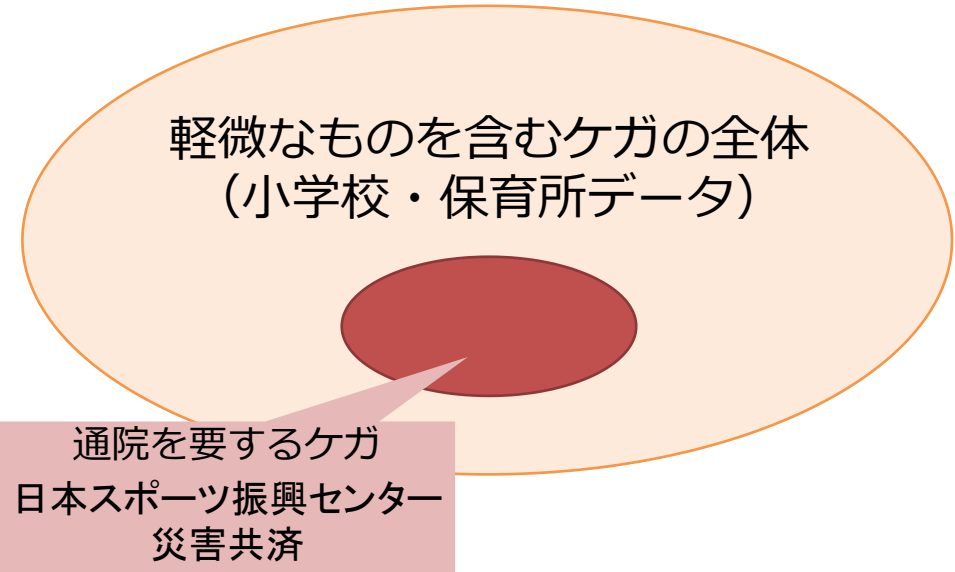
図表9 亀岡市立小学校児童数の推移



出典：学校基本調査（亀岡市教育委員会）

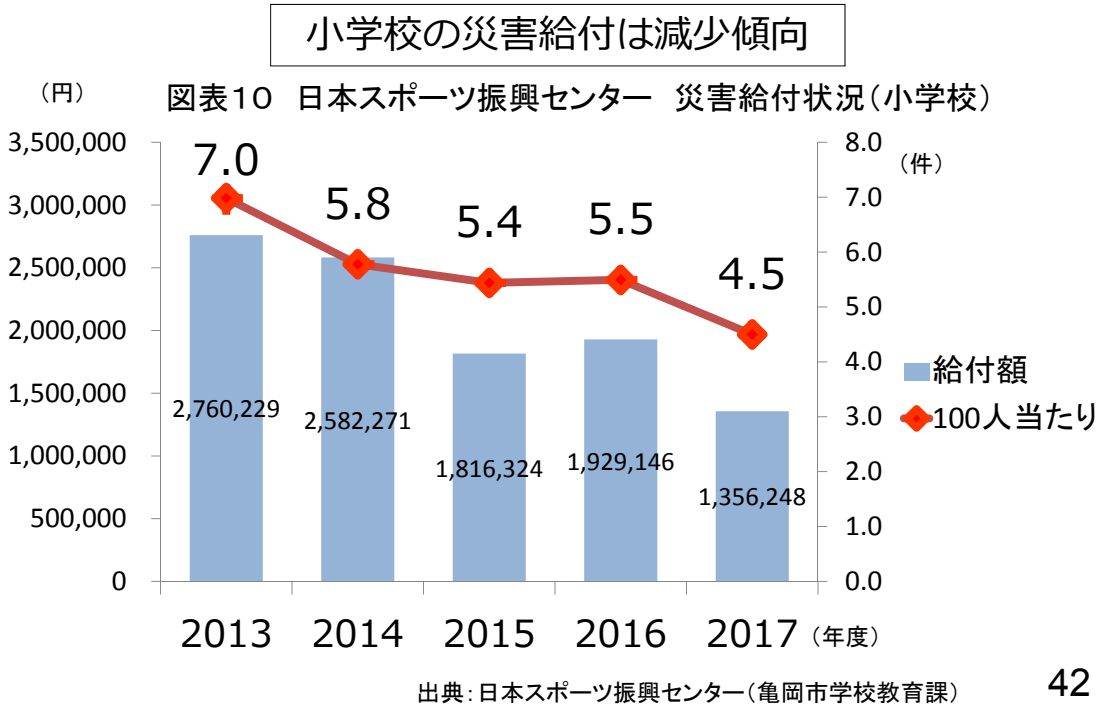
40

亀岡市の小学校・保育所の外傷①



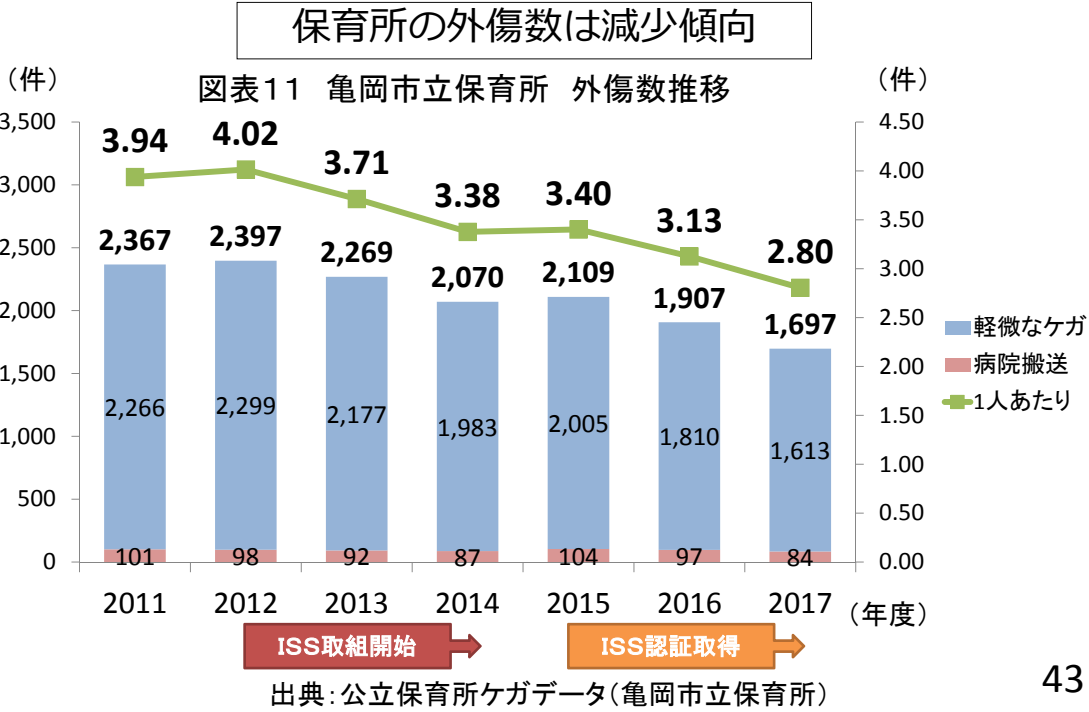
41

亀岡市の小学校・保育所の外傷②

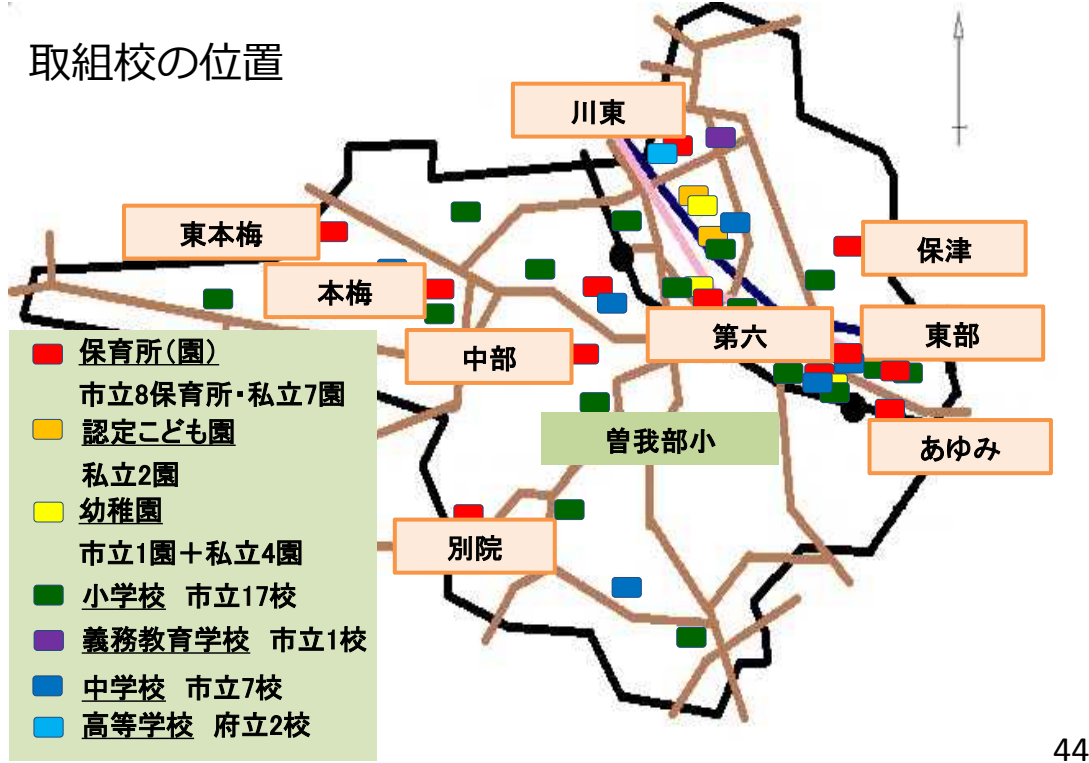


42

亀岡市の小学校・保育所の外傷③



43



44



ガイドラインに沿った 8指標に基づく活動

- 指標1 安全向上に取り組む運営体制の整備
- 指標2 取組の方針(政策)は、SCの文脈に基づき、自治体や教育委員会等の方向性と一致
- 指標3 すべての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な予防活動
- 指標4 ハイリスクのグループ・環境および弱者グループを対象としたプログラム
- 指標5 入手及び活用可能な根拠に基づいたプログラム
- 指標6 外傷の頻度と原因を継続的に記録する仕組み
- 指標7 予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組み
- 指標8 国内・国際ネットワークへの継続的な参加

45

指標2

第4次亀岡市総合計画



亀岡市子ども・子育て支援事業計画 (2015～2019)

基本目標 子育てしやすい安全でやさしいまちづくり

47

具体的なセーフスクール活動は
各取り組み校で発表します

46

指標2

亀岡市教育振興基本計画 (2013～2020)

重点目標 安全安心で充実した教育環境の整備

48

年	関係自治体等	概 要
2016	豊島区	豊島区ISS認証式に出席
	豊島区	セーフスクールサミットin豊島で曾我部小学校が 取り組み発表
	厚木市	清水小学校ISS現地審査に参加
	豊島区	池袋本町小学校ISS現地審査に参加
	厚木市	清水小学校ISS認証式に出席
2017	松原市	中央小学校ISS現地審査に参加

49

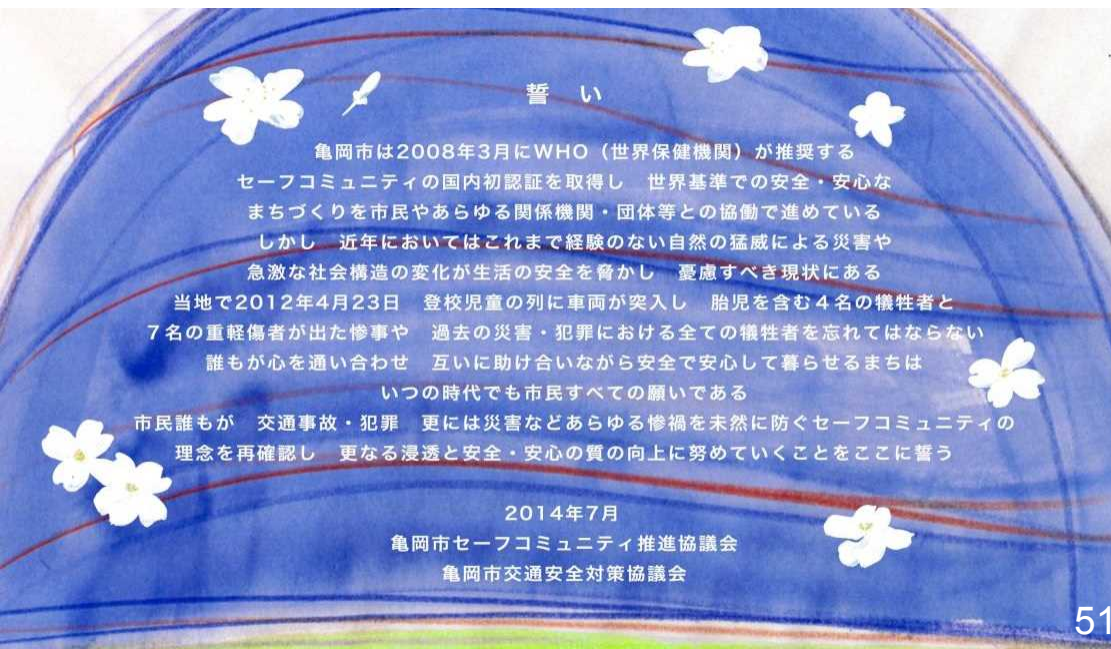
○認知度を高める

○セーフスクールの取組効果を他の学校に広める

○一歩進んだ効果検証を行う

50

ありがとうございました



51